

幕末・明初の英語図解単語集

『對譯名物圖編』（慶応3年）ほか

教育学部教授 竹中龍範

1. はじめに

イギリスの家庭料理に toad-in-the-hole なるものがある。20年ばかり前、文部省在外研究員としてイギリスでホームステイをしていたときに、伝統的な家庭料理にはどんなものがあるのかと尋ねたところ、そのおばさんが帰国までの間にいろいろと作ってくれた料理のひとつである。直訳すれば「穴の中のヒキガエル」、思わず、「エーッ、あのカエルの仲間なの?」と聞いてしまった。おばさんは吹き出して、「ちがう、ちがう。バター (batter —水または牛乳で溶いた小麦粉に卵を割り込んだもの) の中にソーセージを適当に落とし並べて、オーブンで焼いたものよ。それが焼きあがると、ちょうど、ヒキガエルが穴の中にもぐりこんだときのように見えるから、そういう名前がついたの。」との返事。実にシンプルな料理であったが、今となってはなつかしい。

この料理名について、食事後、辞書を調べるとたしかに、“sausages or other meat baked in batter” (POD⁷)と定義していた。現行の学習者用英々辞典でも “a British dish of sausages cooked in batter” (OALD⁷)と同じような定義が与えられている。しかし、いずれの定義を見ても、その形状までは想像がつかない。ましてや「衣をつけて焼いたソーセージ [牛肉]」(『ロイヤル英和辞典』)との説明では、深皿に濃い目の水溶き小麦粉を用意し、そこにソーセージを落としてオーブンで焼いた料理との実像を結ぶことは不可能である。まさに「百聞は一見に如かず」である。

この「百聞は一見に如かず」との考えを辞書、単語集に取り込んだものが図解という発想である。今回取り上げた神原文庫収蔵資料は、幕末より明治初期にかけて出された英語図解単語集5点である。

2. 英語辞書・単語集における視覚情報

幕末・明治の初め、日本人が英語を学び始めたころ、滔々と流れこむ西洋文明の息吹にふれるなかで、それまでの日本にないものや未知の概念を表す英単語に人々はどうのように取り組んだのであろうか。もともと概念がない、ということは、それを表す日本語の訳語も存在しないということである。それを説明するためには、目に見えるものであれば現物を見せるということができる。あるいは、それを絵によって示すこともできる。後者は図解という方法である。

この図解、すなわち、ことばによる説明(定義)、あるいは訳語ではじゅうぶんな理解が困難と予想される場合には挿絵を添えるという方法を最初に英和辞典に取り入れたのは、明治6(1873)年に日就社より刊行された柴田昌吉・子安峻編『附音挿圖 英和字彙』である。これは、元にしたジョン・オウグルヴィー(John Ogilvie)の辞書に挿入されていた挿絵を取り入れたものであるが、本文中の当該の語の脇に挿絵を添え、さらに、巻末にはその挿絵をジャンル別に分類して再掲している。その書名『英和字彙』に「挿圖」を冠するゆえんである。いま一例を引くと、aardvark(ツチブタ)については、



図1 『英和字彙』より Aardvark の項

というように、訳語にあたるものが得られないため、単に「獣名」とし、説明を加えたうえ、さらに図解を与えている。ただし、この『英和字彙』においては、元となったオウグルヴィーの辞書がイギリス人向けであることにより、彼らにとって図解が必要なものについて視覚情報を与えるという方針で編まれているために、必ずしも日本人に必要な情報がじゅうぶんに図解で与えられているわけではない。

この点で、ここに取り上げた英語図解単語集は、英学初期の時代にあつて、英語を学ばんとする日本人に対して、その必要とする視覚情報を提供すべく編まれたものということができよう。言うまでもなく、図解という方法について、当時の日本人は、中国明代に編まれた『三才圖會』やその日本版である『和漢三才圖會』によって、その意味を認識していたであろうから、この種のものがさほど新奇な企図であったともならないであろう。これは、以下に取り上げる単語集の中に『童解英語圖會』なる書名が見られるところからも察せられる。

3. 神原文庫収蔵の英語図解単語集

まず、これら、幕末・明治初期に刊行された英語図解単語集5点の書誌情報を簡単に見ておきたい。刊行年順に取り上げる。

- 1) 『對譯名物圖編』 買山迂夫 [出版人不明]
慶応3 (1867) 年
『對譯名物圖編』 市川央坡 (從吾所好齋藏梓)
明治5 (1872) 年
- 2) 『童解英語圖會 初帙』 弄月亭陳人抄撮・蕙齋閑人
圖画 (文永堂梓) 明治3 (1870) 年
『童解英語圖會 貳帙』 弄月亭陳人抄撮・蕙齋閑人
圖画 (文永堂梓) 明治4 (1871) 年
- 3) 『英字訓蒙圖解』 [著者不明] (木村宗助・小川金助)
明治4 (1871) 年
- 4) 『英國單語圖解 上』 市川央坡 (從吾所好齋藏版)
明治5 (1872) 年
『英國單語圖解 下』 市川央坡 (從吾所好齋藏梓)
明治7 (1874) 年

- 5) 『西洋画引節用集』 井上廉平輯・長谷川貞信画
(大野木市兵衛發兌) 明治5 (1872) 年
『西洋画引節用集 二編』 井上廉平輯・長谷川貞信画 (寶文堂藏梓) 明治6 (1873) 年
いずれも和紙木版刷りの和本であるが、2) 『童解英語圖會』が左袋綴じ小型判、3) 『英字訓蒙圖解』が左袋綴じの半紙判であるほかは右袋綴じ小型判である。

また、内容的には4) の『英國單語圖解 上』が1) の『對譯名物圖編』明治5年版の異版となっているが、他のものはそれぞれ別に編まれたものである。

以下、それぞれの内容を簡潔に見ておきたい。

4. 『對譯名物圖編』・『英國單語圖解』

買山迂夫の編んだ『對譯名物圖編』は、その前年、慶応2 (1866) 年に幕府の洋学研究・教育機関である開成所が刊行した『英吉利單語篇』(Book for Instruction at the School Kaiseizio) 収録の英単語に対して、カタカナによる発音と訳語とを与えたものである。

元となった『英吉利單語篇』は、オランダ人 Van der Pijl による英蘭対訳の参考書 Gemeenzame Leerwijs を基に開成所が刊行した Familiar Method for those who begin to learn the English Language (1860) の単語の部より名詞だけを取り出して独立の単語集としたものである。内容は5部に分けられ、Part Iは、図2のように、学校関係用語30語をまとめている。

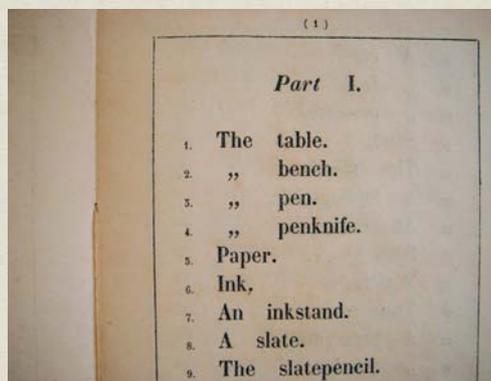


図2 『英吉利單語篇』

以下、天地、軍事用語、身体、社会語彙、厨房用語、動植物、職業、固有名詞というテーマの構成となり、総計 1,490 語を収めている。

この開成所の『英吉利単語篇』が如上の内容によってただ単語をならべただけのものであったので、これの独習書として、以後、さまざまな参考書が刊行されるが、この『對譯名物圖編』はその最も早いもののひとつである。その「附言」には、「此書名ケテ圖編ト曰フ、固ヨリ宜シク一名物毎ニ圖ヲ出ス可、而テ今其圖ヲ加エサル者ハ編中其物ノ彼ニ有テ我ニ無キ物マ少ナカラス、編者畫工共ニ其物々ヲ詳悉シテ能ク杜撰無カラン事ヲ欲ス、故ニ校正ヲ苟且セス、思ハス數月ヲ彌リテ、未卒業ノ際、學童輩蚤ク此著有ヲ知テ請需ムル日ニ切ナリ、依テ姑ク其圖ヲ閣キ、虚格ヲ其儘存シテ上梓シ、聊先ツ其責ヲ塞ク、實ニ梅林ヲ説テ渴ヲ止ルノ副急已ヲ得サルニ出ルノミ、猶精覈シテ密圖ヲ填塞スル數日ノ中ヲ出サル可シ、看シ人幸ニ此匆卒ノ擧ヲ尤ムル勿レ、慶應三丁卯歳晩秋日 買山迂夫誌」(適宜、句読点を補った)と記している。すなわち、書名に付したように、一々図を出すべきであるが、日本にない物もあるために、編者、画工ともにそれらを熟知してからと思っていたところ、本書刊行の計画が知られるところとなり、その求め切なるところがあるために、図を入れるべきところを空けたままに出版し、一応の責を塞ぐものである。さらに詳しく調べて不明のものを明かにし、図の入った版を一日も早く刊行するつもりである、と述べ、その著者としての態度には真摯なものを見せている。なお、梅林を説いて渴を止めるとは、むかし中国で、夷狄の征伐に向かったある将軍が、喉の渴きを訴える兵士に向かって、もうしばらく進めば梅林があると言ったが、行けど進めどそのような林は見えてこない、これを訝しむ兵士に、梅林などはない、しかし、酸っぱい梅のことを想像したことで喉の渴きは癒えたであろうと論じた故事を踏まえたものである。

本書の内容は、『英吉利単語篇』収録の英単語を、順序もそのままに、毎半丁を 2 行 5 段の 10 マスに分け、各語に発音と日本語訳とを与えている。『英吉利単語篇』では “The table. / ” bench. / ” pen.” あるいは “An

inkstand. / A letter. / ” line.” のように冠詞を添えたものと、“Paper. / Ink.” のように不可算名詞のために冠詞を付けていないものがあるが、本書ではすべて冠詞を省いた形で掲げている。そのために、語頭が大文字のものと小文字のものが混じって載録されている。また、“writing-book” が “copy-book”、“pencase” が “penholder” と改められるなど、見出し項目の英語が差し替えられているものもわずかながら見られる。

いま、前掲の『英吉利単語篇』冒頭に対応する本書 1 丁オモテを見てみると、

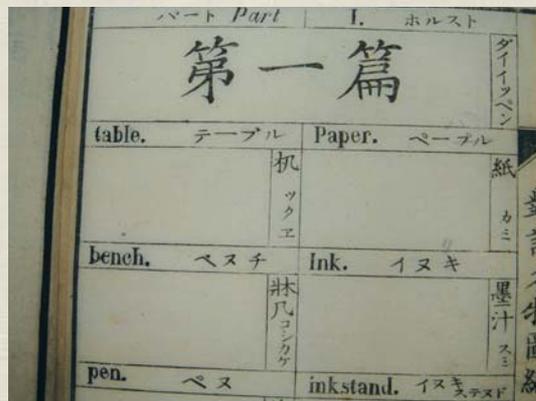


図 3 『對譯名物圖編』

といった具合である。

発音の表記で注目されるのは、英語の n の音を「ヌ」で表しているが、これは福沢諭吉の『増訂華英通語』(1860)の方式を採ったものかと思われる。ただし、“Spring スプリヌグ” といった具合に、ng の音 ([ŋ]) についても同様に「ヌ」を充てているので、[n] と [ŋ] とを厳密に区別しているわけではない。また、v の音についても、“Heaven ヘエヴヌ / valley ヴエルレイ / river リヴル” というように、福沢が同書において発明した「ヴ」の表記を用い、また、“Silver シルヴア” のように「ヴ」で表す工夫をしているものの、“vice-admiral ワイス エドミラル / victory ウイクトリ” という表記も見られる。この後者の例は、彫師が版木を彫る際に誤って削り落とした可能性があるとも見られようが、“nerves 子ーフス” との例について見る限り、「子一

ヴス」の「ヴ」の濁点が削られ、さらに「ウ」の1画目、2画目までが誤って削り落とされたとすることは牽強附会の誇りを免れないであろう。

母音については、日本人が「ア」としてしまいがちな [æ] を“rat レット / bat ベット / Anger エヌゲル / Cramp クレムプ”と「エ」を用い、また、一部混乱も見られるが、[ʌ] は「オ」段で表している例が多い。

総体的にみると、発音については、福沢の『増訂華英通語』のような先行資料があるにせよ、日本人の耳になじみのない音について、限界を見せつつも、カナによって区別をしようと試みていることは評価できよう。

一方、各語に付された訳語は、的確、あるいは、ほぼ妥当と判断されるものが多く、例えば、“valley 谷 タニ / Silver 銀 ギン / Heaven 天 テン”などは全く問題がない。幕末期の日本人にとって理解しえたものかどうかとの語については、例えば、“nerves 神経 シラスヂ / Cramp 拘攣 コウレン、ヒキツリ / Soul 精神 タマシビ”と、漢語に対してやまとことばを添えたもの、あるいは、“tongue 牛舌 シホツケノウシノシタ / veal 犢肉 コウシノニク / Beef-steak 炙牛肉 キリメライレシヤキニク / church-yard 寺地墓 テラニツキシハカ”というように注記を加えたものなどのタイプが見られる。

この『對譯名物圖編』慶応版に挿絵を入れて再版されたものが、明治5年に市川央坡によって編まれた『對譯名物圖編』（従吾所好齋蔵梓）である。この本書明治版について、『大阪女子大学蔵 日本英学資料解題』（大阪女子大学、1962）は、これを未見であるとし、また、後述するように、本書の版木をそのまま用いて、書名のみを『英國單語圖解』上下と改めた版があるが、これについても「『上』は九州大学筑紫文庫のを見たが、『下』は未見。或いは刊行されなかったのかも知れない。」(p.160)と記している。神原文庫所蔵の『對譯名物圖編』明治版ならびに『英國單語圖解』上下揃いを貴重書として紹介する所以である。

もともと、神原文庫が蔵するこの『對譯名物圖編』明治版は替表紙となっており、そのため、これは、板心も「對

譯名物圖編』のまま残す慶応版版木を用いてこれに挿絵を加刷し、書名を『英國單語圖解』と改めた表紙をつけて明治5年に出された『英國單語圖解』上巻から表紙を取り外し、替わりの表紙をつけたものではないかとの可能性が疑われるかもしれない。しかし、この神原文庫所蔵本の大きさは20.0 cm×13.5 cmとなっており、後述の『英國單語圖解』上下編の18.0 cm×12.5 cmという大きさより一回り大きな判型であることから、やはり『英國單語圖解』とは異版であると判断されよう。

また、この両書間に挿絵の差し替えが見られ、図4のように、一日の時間帯を表す単語を掲げたところでも、『對譯名物圖編』明治版では、“Noon ヌーヌ 午時 ヒル”として猫の絵が描かれ、その意図するところが不明であり、さらに、“sunset”を表す挿絵の内容は、むかし、現在の広島県呉市と倉橋島との間にある音戸の瀬戸を開削する際に、工事の遅れを取り戻すため、平清盛が沈み行く太陽を扇で招き戻したとの故事を知らないと、これが日没のときを表した絵であるとは理解し難いものであったが、これを『英國單語圖解』について見ると、前者は食事風景の挿絵に改められ、後者は清盛の姿が削られて、日没の太陽のみが描かれているので、より正確な、分りやすいものに改められた『英國單語圖解』を後刷り別版と判断することにはいささかのためらいも許されないであろう。

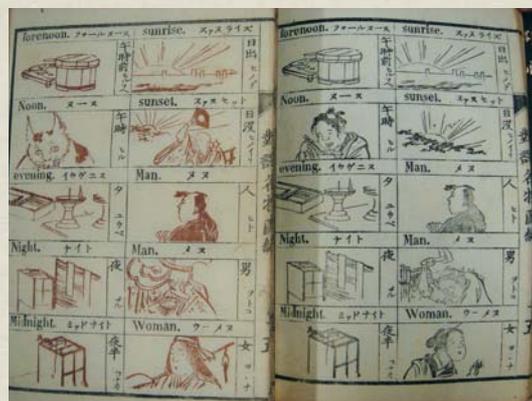


図4 『對譯名物圖編』明治版・『英國單語圖解 上』

この『對譯名物圖編』明治版は、『英吉利單語篇』

の第4部までの語について、慶応版の版木によって見出し語・発音・訳語・同読み仮名を黒で刷り、そこに挿絵を茶褐色にて重ね刷りしている。そのため、各マスの界線上に挿絵がかかっているところも見られる。その挿絵は、慶応版「附言」に謳うごとく、「編者畫工共ニ其物ヲ詳悉」すべく精覈して成ったものとは言いがたく、とても英語文化を挿絵によって示したものと呼べる代物ではない。もともと抽象名詞を図示することは困難であるが、具象名詞にしてもやはり日本文化を写したものである場合がほとんどである。上掲の引用例についても、例えば“church-yard”などは、「テラニツキシハカ」との注記を施しながら、そこに描かれるのは日本式の墓石2基であって、教会や十字架などはどこにも見られない。

もともと、“Beef-steak”にしても、挿絵はステーキのように見えなくもないが、いったい、この明治初期の時代にあつて、肉を食する習慣がどの程度根付いていたものか、「炙牛肉キリメヲイレシヤキニク」との訳語・注記が与えられても、大方の日本人はこの挿絵から、今日の日本人のようにステーキを認知することはできなかったのではないかとも思われる。

本文にこの『對譯名物圖編』明治版を用い、判型を一回り小さくして表紙題簽ならびに見返扉を改めて刊行したのが『英國單語圖解』上巻である。見返扉には「市川央坡著／英國單語圖解／明治五仲夏 從吾所好齋藏版」と記し、本文38丁ウラには「市川央坡著／明治五年蒲月新刊／從吾所好齋藏梓」との奥付が与えられている。

その内容は、挿絵の刷り色が黒に変わっているほかは、前掲の『對譯名物圖編』明治版に同じい。ただし、この上巻の挿絵刷り色については、神原文庫所蔵本が黒の墨摺りであるのに対し、大阪女子大学（現・大阪府立大学蔵）本は茶色であるとしているので、異版であろうかと思われる。また、挿絵の差し替えが一部見られることは前述したとおりである。

本書の下巻は、明治7年の刊行で、見返扉を有しないが、本文冒頭にあたる38丁オモテに筆書にて「英國單語圖解 墨齋書」と書名を記し、奥付には「明治七年一



図5 『英國單語圖解 上』9丁ウラ・10丁オモテ

月新刻／市川央坡著／從吾所好齋藏梓／和泉屋半兵衛・萬屋忠藏梓」とある。本文は、上巻と同じく、板心に『對譯名物圖編』と刷り込んだ慶応版を用い、38丁ウラより『英吉利單語篇』の第5部収録の語について発音・訳語・同読み仮名・図解（赤褐色の重ね刷り）を与えている。

図解が日本文化に基づくことは上巻と同様であり、例えば、“Soul ソウル／精神 タマシビ”に与えられた挿絵は人だまの絵であり、また、種々の金属を表す語を掲げたところで、“Gold ゴールド”、“Silver シルヴァ”に与えられているのは、それぞれ江戸時代の通貨である小判ならびに一分銀の絵である。ただし、銅貨である寛永通宝や天保通宝などは使われていない。

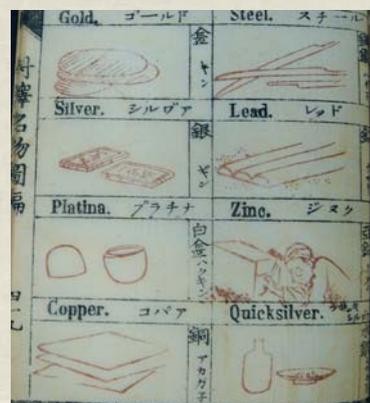


図6 『英國單語圖解 下』49丁ウラ

また、『英吉利単語篇』第5部の最終部に収められた世界各国の国名・都市名や河川名などはいかがが図示しているかと見てみると、前者については色刷りによって国旗や市旗、町の風景を描いているが、後者についてはダニューブ河もライン河も水の流れを描くばかりである。



図7 『英国単語圖解 下』73丁ウラ・74丁オモテ

とまれ、本書下巻は、大阪女子大の「英学資料解題」に見たように、これを蔵するところ少なく、「或いは刊行されなかったのかも知れない」ともされる稀書である。

5. 『童解英語圖會』

やはり図解によって英単語に親しませようとの意図によって編まれたものであるが、その編者が弄月亭陳人と名乗り、その序に「戯作者流の手に成るものは所謂換骨奪胎の唱えはあれど」と記すように、なにを理念として編されたものか読み取り難い図解単語集である。初帙・貳帙（題簽には「二輯」とする）の2巻から成り、初帙は明治3年、貳帙は明治4年の刊行である。

内容を見ると、まず、初帙見返扉には「弄月亭陳人抄撮・蕙齋閑人圖画／童解英語圖會 初帙／東京書房 文永堂梓」と記されているが、その上部に掲げられた英文書名は、“THE PICTORIAL / ENGLISH AND JAPAN / LANGUAGE” となっており、単語の分かち書き、綴りはもとより、英語としての体をなさない形で掲げられている。The Pictorial Vocabulary of the English and Japanese Languages くらいの意図であろうが、

まず、およそ本書編纂に対する姿勢が読み取れよう。

初帙本文は、イロハのローマ字綴りに続いて、四季・十二ヶ月・十二支にあたる語を英語綴り、平仮名による発音表記、訳語とその訓みに挿絵を添える形で与え、これよりは毎半丁に同様の形式で5～6語を掲げている。ただ、そこに取り上げられている語がなにを基準に選定されているかは読み取れない。



図8 『童解英語圖會 初帙』7丁ウラ

また、英語の綴りにも“Autūmn” というようにuの上に’を付すなど、オランダ語のなごりとも窺われるものが見られる。発音表記のほうは、例えば、四季を表す“Spring, Summer, Autumn, Winter”は「すぶりん、そむまる、を一つむ、うゐをたる」、月名中、“January, March, April, November”は「ぜにゆるり、まるちゆ、ゑぶりる、のうえぬばる」と言った具合である。また、“dragon”が「づれごす」となったのでは、この発音を聞いてもとの英単語を推測することは難しいであろう。

一方、貳帙のほうは、日常の生活場面を取り上げ、そこに描かれたものに日本語と英語を与えている。英語に平仮名で発音を添えるのは初帙におけると同様である。いま一例として10丁オモテをここに掲げるが、「懼 おそれる」は英語の単語を欠いている。「ふるーる」との発音表記からすると“fear”であろうと思われるが、この一場面より子どもにいかなる英語を教えようというのであろうか。

なお、ここに見られるように、発音表記中、“Drunk づ



図9 『童解英語圖會』 貳帙10丁オモテ

ろぬく, Disobedient ちすをびーぢーぬと”に見られるように、[n] について「ぬ」を充て、“Snatch すねちぢゆ”のように [æ] に「エ」段をあてるのは『對譯名物圖編』と同様である。

6. 『英字訓蒙圖解』

西京書林 木村宗助・小川金助発兌に係る本書は、今回取り上げたものの中でもっとも判型が大きく、22.0 cm × 15.5 cm という大きさである。

題簽には「英字訓蒙圖會 全」と記し、挿絵をもつ見返扉には「英字／訓蒙／圖會」と書名のみを書いている。そのため、本書著者、出版者、出版年などは扉からは読み取れない。出版者については、奥付の広告ページに上掲両名の名があることで特定できるが、出版年は下に引用の序文により明治4年としておく。著者について、『神原文庫分類目録』は「山越接三」とするが、これは本書奥付の広告に拠ったものと思われる。ただ、この広告欄中、「山越接三」というのは「獨逸単語篇附譯」のみに係り、松岡章による「和英通語」には係らないので、本書を山越の手になるものとするのは難しいかと思われ、また、序文にも「小河氏之舉爲兒童抄出洋語若干」とあることから、大阪女子大の「英学資料解題」にしたがって、著者不明としておきたい。なお、書名については、その序ならびに板心には「英訓蒙圖會」と「字」の字を欠くが、見返

扉にしたがって「英字訓蒙圖解」とする。

その「英訓蒙圖會序」には、「登ルニ高必自リスレ卑行クニ遠必自リスレ近信ナル哉抑小河氏之舉爲兒童抄出シテ洋語若干旁以繪像ヲ解スレ之ヲ者將令下難之不レ覺レ難キヲ媮日優翫以到中高遠之域上者亦所四一以俾三覽者ヲシテ無レ輕視一者蓋在ルニ于斯ニ乎 明治四辛未仲冬 樵雲逸史題」と記し、小河氏が児童のために洋語（英語）若干を抄出して、かたわらに絵像をもってこれを解くものであるとその挙を讃している。

本書の構成は、アルファベットを筆記体小文字、活字体大文字で記し、次いで五十音をローマ字・カタカナ・漢字・ひらがなで与え、つづいて数字、十干十二支、月名、一般の語となっているが、その項目選定の基準はまったく不明である。内容的にも、英語の綴りが誤っていたり、カタカナの発音表記が間違っていたり、さらには、まるで無関係な挿絵・訳語をつないだりと、とても英語学習入門者の参考とはし難い代物である。それぞれ例を挙げると、綴りを誤るものとしては“Sucks ソックス くつしたたび” “Caw 丑”などがあり、不正確な発音を与えるものとしては“July ジュリー” “Watch ウイッキ” “Clock ヲークロク”などがある。まったく意味を成さないものとしては、“Coth コーツ セびろ”なる項目があり、数学の「双曲線余弦」を取り上げているとも思われないが、訳語、挿絵から“Cloth”の誤りかとも考えられるものの、それにしては、発音は綴りを反映しており、挿絵も背広とするには難しいものである。“Meat ミート 食物” “Fresh フリシ 肉” “Fish フイフ鯛”などもなぜこのようになるのかよく分らないが、“Desk ジスク 寫眞鏡”としてカメラの絵を与えるものに到っては、まったく不明としか言いようがない。

ただ、日本語では区別をしないことの多いものに対しては、“Cap ケアツブ”の項で「平帽子 ケツブ / 高帽子 ハツト」と示したり、“Watch たもとどけい” “Clock かけ時計”と分けたりしているところもあり、さらには、図10のように、“Pen ペン ペン / Slat[e]pencil スレートペンシル 石筆 せきひつ / Leadpencil レッドペンシル ほつとろおどまたペンしるともいふ / 石筆といふはわろし”と適切な注を与えている

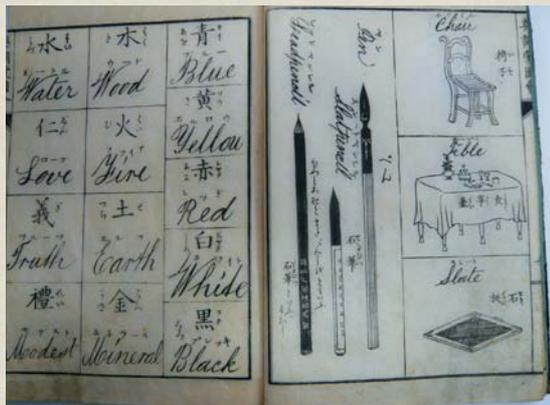


図 10 『英字訓蒙圖會』 10丁ウラ

ところが見られないでもないが、これは例外的とも言える。

7. 『西洋画引節用集』

今回取り上げた図解単語集の中でも巷間見かけることの比較的多いのが本書である。見返扉には「西洋画引節用集／井上廉平輯 長谷川貞信画／大阪 大野本市兵衛發兌」と記し、その上部に英文にて“SEIYOWUEBIKI / SETUYOWUSIWU”と掲げている。

内容は、大阪女子大「英学資料解題」が解くように、明治4年刊のイロハ引き和英単語集『袖珍英和節用集』の図解版となっている。ただ、単に挿絵を添えただけではなく、例えば、『袖珍英和節用集』の「パン Bread」を“Bread”と改めるなど、校訂の跡は見られる。

毎半丁を5段に区切り、挿絵に英単語を活字体・筆記体で与え、カタカナで発音を添え、その右に振り仮名を添えた漢字訳語を配している。ただ、その挿絵はやはり和洋混交であり、「字ノ部」に与えられた「歌」について、これを“Song ソング”としつつ、その挿絵は和歌の書かれた短冊であり、理解を誤らせる。また、「保ノ部」の「疱瘡 Small pox スモール ポックス」の挿絵は、図11に引いたようなものとなって、藁で編んだ円座に姫だるまと笹、折に入った餅のようなものが載っているものである。これは、かつて、疱瘡にかかると円座に御幣や小鳥居を立て、赤飯や病を吸い取ってくれると信じられた人形の類を載せて

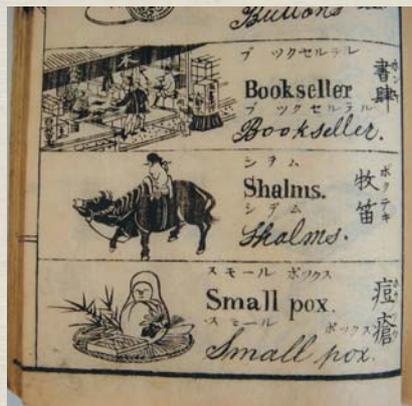


図 11 『西洋画引節用集』 9丁ウラ

川に流したという民間信仰を反映したものであるが、当時の人々には連想しやすいものであったのだろうか。

本書巻末には「猶是に漏たるハ二篇三篇に抄譯すべし」と記すが、その第二編は翌明治6年に刊行されている。見返扉には「紀元二千五百三十三年／西洋画引節用集二編／寶文堂蔵梓」と記す。初編巻頭には「洋婦人幼稚教育之圖」と題する錦絵が載せられていたが、この第二編には「洋童水遊之圖」と題する錦絵が掲げられている。

挿絵が和洋混交であるのは初編と同じであるが、洋の比率が初編よりもやや高くなっている印象を与え、「大学校 University ユニヴァルセター」には、二階建ての洋館とおぼしき挿絵が添えられている。また、「玉突き遊ビ Billiards ビリヤルツ」としてビリヤードを紹介する挿絵も見られる。ただし、「鬱金香 ウツコンコウ Tulip チウリップ」の挿絵は、図12に見るように、明らかに朝顔の絵であり、「樺カバ birch バアルチ」も、とてもカバの木には見えない、というような例もわずかながら見られる。

注記が与えられるものもあり、例えば、「玉子焼き Omeletict [マ] ヲムレット」には「雜マ物入ノ」との注、「立場 Station ステーション」には「蒸氣車ノ」との注、「隧道 Tunnel トゾル」には「蒸氣車ノ地中通路ナリ」との注が、それぞれ与えられている。

本書は、今回取り上げた図解英単語集5点のうちでもっ

地域の 貴重資料



図 12 『西洋画引節用集 二編』 23 丁ウラ

とも遅い出版であることもあって、視覚情報の点でも、また、カタカナで施された発音表記の点でも、比較的精度が高まっている。

8. おわりに

幕末の開国から明治維新を経て文明開化へと進むこの時代に、西洋語の流入、西洋文物到来の波のただなかにあって、当時の日本人は、それまで未知のものであった事物を急速に受け入れねばならない状況に追い込まれた。物がありながら名前がない、概念を理解しながらそれを表す語がないという言語状況は異常である。この状況を打破しようとして、この時代の人々はただならぬ苦勞をしている。その一つの方法は、表意文字である漢字を組み合わせることであり、いま一つの方法は、ことばと視覚情報とを結びつけることであった。しかし、後者について、それまでの日本にないものをいかに図解するか、これがここに取り上げた図解単語集の著者、编者たちが苦勞したところであった。

現在でも新しい図解辞典が刊行される。例えば、コンピュータ関係の情報は最新刊の図解辞典には載せられているが、30年前に出版されたものにはほとんど盛り込まれていない。各時代に合った情報が求められるのは一般の辞書も図解辞典も同様である。言い換えれば、それらの情報は時代を映す鏡でもある。幕末・明初に刊行されたこれらの英語図解単語集をひもとくことで、当時の日本人が新しい時代にいかに向かおうとしたか、新たな価値観をどのように

受け容れようとしたか、その一齣ひとコマが浮き彫りにされるよう。

